

|  |  |
| --- | --- |
|  | 令和４年11月30日発表青森県「攻めの農林水産業」推進本部 |

令和４年産特産果樹の生産概況

１　気象（五戸：りんご研究所県南果樹部）

（１）積雪深

　最深積雪は２月21日の40cm（平年53cm）であった。加えて、２月下旬以降の気温が平年より高く推移したことから、消雪日は平年より６日早い３月13日であった。

（２）気温

　１月から２月の気温は概ね平年並から平年よりやや低く推移し、３月以降は６月上旬、８月下旬及び10月を除き、平年並から平年より高く推移した。真夏日は計９日で猛暑日は観測されなかった。

（３）降水量

　３月、６月及び８月の降水量が平年より多く推移し、４月から10月までの総降水量は992.5㎜（平年比117％）と多かった。特に、８月の総降水量は389.5mm（平年比261％）とかなり多かった。

（４）日照時間

　７月中旬、８月上中旬及び10月上旬を除き、平年より多く推移した。特に６月は平年比153％、５月は150％、９月は147％と多く、４月から10月の総日照時間は1,377時間（平年比130％）と多かった。

２　主要果樹の生育経過等

（１）ぶどう

【キャンベル・アーリー（無加温ハウス）】

ア　生育ステージ

　発芽日は、五戸で平年より４日早い４月10日、三戸（県生育観測ほ）で１日遅い４月５日であった。開花日は、五戸で平年より４日早い５月23日、三戸で２日早い５月12日であった。

　着色日は、五戸で平年より２日遅い８月２日、三戸で２日遅い７月19日であった。収穫始めは三戸で平年と同日の８月３日であった。

イ　作柄

　10ａ当たりの房数（以下、房数）が平年をやや上回ったが、平均房重（以下、房重）が平年をやや下回ったことから、10ａ当たりの収量（以下、収量）は2,956kgと平年をやや下回ると見込まれた。

ウ　病害虫の発生状況

　褐斑病が一部園地でやや多かった。

【キャンベル・アーリー（露地）】

ア　生育ステージ

　発芽日は、五戸で平年より９日早い４月19日、三戸（県生育観測ほ）で４日早い４月21日であった。開花日は、五戸で平年より８日早い６月11日、三戸で７日早い６月６日であった。

　着色日は、五戸で平年より１日早い８月19日であった。

イ　作柄

　房数は平年をやや下回り、房重が平年を大幅に下回ったことから、収量は1,858㎏と平年を大幅に下回ると見込まれた。

ウ　病害虫の発生状況

　褐斑病が一部園地でやや多かった。晩腐病がやや多かった。

【スチューベン】

ア　生育ステージ

　発芽日は、黒石で平年より３日早い４月25日、弘前（県生育観測ほ）で８日早い４月21日、鶴田（県生育観測ほ）で５日早い４月26日であった。開花日は、黒石で平年より５日早い６月12日、弘前で４日早い６月12日、鶴田で４日早い６月15日であった。

　着色日は、黒石で平年より１日早い８月24日、弘前で５日早い８月21日、鶴田で６日早い８月22日であった。収穫始めは、弘前で平年より６日遅い10月７日、鶴田で10日早い９月18日であった。

イ　作柄

　房数が平年をやや下回ったが、房重が平年並であったことから、収量は1,919㎏と平年をやや下回ると見込まれた。

ウ　病害虫の発生状況

　灰色かび病が一部園地でやや多かった。晩腐病がやや多かった。ベと病の葉での発生が一部地域でやや多かった。

（２）おうとう

【佐藤錦】

ア　生育ステージ

　発芽日は、五戸で平年より９日早い４月14日、弘前（県生育観測ほ）で６日早い４月17日、南部町（県生育観測ほ）で５日早い４月13日であった。開花日は、五戸で平年より８日早い４月23日、弘前で７日早い４月24日、南部町で５日早い４月22日であった。

　着色日は、五戸で平年より10日早い６月４日、弘前で３日早い６月９日、南部町で５日早い６月５日であった。収穫始めは、弘前で平年より２日遅い６月27日、南部町で平年より１日早い６月20日であった。

イ　着果状況

　一花束状短果枝当たりの着果数は、県南地域が1.60果（平年1.88果）、津軽地域が0.87果（平年2.09果）であった。

　開花期間中の低温や強風等の影響による結実不良のため、着果数は平年より少なかった。

ウ　病害虫の発生状況

　灰星病が一部地域でやや多かった。褐色せん孔病が一部園地でやや多かった。

　　エ　生理障害の発生状況

　５月下旬以降の降雨による土壌水分の急激な上昇に加え、ヤマセにより湿度が高まったため、裂果の発生が見られた。

【ジュノハート】

ア　生育ステージ

　発芽日は、五戸で平年より10日早い４月14日であった。開花日は、五戸で平年より９日早い４月24日であった。

　着色日は、五戸で平年より９日早い６月３日であった。

イ　着果状況

　一花束状短果枝当たりの着果数は、県南地域が1.11果（前年0.91果）に対し、津軽地域が1.23果（前年2.29果）であった。

　開花期間中の低温や強風等の影響による結実不良のため、津軽地域の着果数は前年より少なかった。

ウ　病害虫の発生状況

　全般に少なかった。

　　エ　生理障害の発生状況

　５月下旬以降の降雨による土壌水分の急激な上昇に加え、ヤマセにより湿度が高まったため、裂果の発生が見られた。

（３）もも

【川中島白桃】

ア　生育ステージ

　発芽日は、五戸で平年より４日早い４月12日、黒石で７日早い４月13日、平川（県生育観測ほ）で４日早い４月13日であった。開花日は、五戸で10日早い４月25日、黒石で８日早い４月26日、平川で７日早い４月24日であった。

　収穫始めは、平川で平年より１日遅い９月２日であった。

イ　果実肥大（横径)

　最終調査時の横径は、五戸が８月20日時点で8.6cm（平年比126％）、平川が８月21日時点で8.2cm（平年比111％）であった。

ウ　病害虫の発生状況

　せん孔細菌病がやや多かった。うどんこ病が散見された。ハダニ類が一部園地でやや多かった。

（４）西洋なし

【ゼネラル・レクラーク】

ア　生育ステージ

　発芽日は、五戸で平年より１日早い４月10日、南部町（県生育観測ほ）で平年並の４月７日であった。開花日は、五戸で平年より10日早い４月25日、南部町で７日早い４月26日であった。

　収穫始めは、五戸で平年より７日早い９月16日、南部町で９日早い９月９日であった。

イ　果実肥大（横径）

　五戸における最終調査時（９月20日）の横径は、9.4cm（平年比107％）であった。

ウ　果実品質

　五戸の収穫時（９月20日）における果実品質は、表面色は平年並、地色、硬度、酸度はほぼ平年並、ヨードでんぷん反応は平年より低く、糖度は平年より高かった。

エ　病害虫の発生状況

　輪紋病が樹上果及び追熟果とも散見された。

（５）うめ・あんず

【うめ（豊後）・あんず（八助）】

ア　生育ステージ

　五戸では、発芽日は、うめ（豊後）が平年より２日早い３月17日、あんず（八助）が１日早い４月２日であった。開花日は、うめが平年より10日早い４月12日、あんずが９日早い４月14日であった。

イ　病害虫の発生状況

　全般に少なかった。

※令和５年特産果樹生産情報第１号は、令和５年４月上旬に発表予定。